

運営推進会議 記録

事業所名	地域密着型特別養護老人ホーム妻の杜
所在地	西都市妻 1680-1
サービス種類	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
開催日時	令和8年度 第1回 令和8年5月22日(金) 13:30~14:30
開催場所	地域交流室なのはな
出席者	<p>1. ご利用者の代表者 : 2. ご利用者の家族代表者 : 合田 修一様 3. 地域住民の代表者 : 民生児童委員妻地区会長 清田 芳弘様 4. 地域包括支援センターの職員 : 南包括 中川 留美様 5. 介護支援専門員 : 吉本浩美 (妻の杜施設ケアマネ) 6. 相談員 : 時松史也 (妻の杜相談員) 7. 医療関係者 : 8. 施設運営に関する助言者 : 幸楽荘施設長 竹田 竜介様 : 健康管理課介護保険係 井下 朗子様 計8名 9. 施設長(司会) : 川崎 桂</p>
議題	<p>1. 2025年度事故やヒヤリハットの件数、発生状況と今後の事故防止に向けた取組方針、改善策の報告</p> <p>① 年間事故件数：74件 主な内容：転倒・転落が多数を占める</p> <p>② 年間ヒヤリハット：230件 転倒・転落につながる可能性のある事例が中心</p> <p>また、入院を伴う重大事故は3件発生。いずれも転倒や移動時の不安定な動作に起因するものであり、再発防止に向けた対策が必要。</p> <p>安全対策の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事故発生時は現場で即時に対応策を検討 ● 月1回の事故対策委員会で事例を共有・再発防止策を検証 ● ヒヤリハット報告の積極的な提出を推進し、リスクの早期把握に努めている <p>出席者からの質問(敬称略)</p> <p>(中川) 事故発生に直面した現場職員さんの精神的な負担は如何に。昨</p>

	<p>今の介護業界はその業務負担が離職の一因となることがあると聞いているが、こちらでは事故後の職員指導等はどのようにしているか (施設回答) 個人責任の追及を行うと、ご意見の通り離職や事故事実の隠ぺいにつながる懸念がある。職員個人に責任を問うのではなく、「仕組み」での改善を重視した、チームで事故対策を徹底するよう指導している。</p> <p>2. 2025 年度介護職員等への研修等質の向上に向けた取組の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 法定研修(身体拘束防止・虐待防止など)を実施 ● 主に e ラーニングを活用し、職員が受講しやすい体制を整備 ● 一部は集合研修も併用 ● 認知症ケア研修は段階的(ラダー方式)に実施 ● 法人全体での理念研修も定期開催 <p>また、実習指導者を養成して今年度より介護福祉士実習(妻高福祉科)の受け入れを開始した</p>
報告事項	<p>1. 利用者数や要介護度等利用者の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 入居者数：28 名（定員 29 名） <input type="checkbox"/> 平均年齢：約 88 歳 <input type="checkbox"/> 平均要介護度：3.71 <p>2. 協力医療機関等医療体制の報告</p> <p>昨年度に引き続き、新富ひむかクリニックと川南病院(2025 年 3 月に協定更新)</p>
評価 感想 等	
要望・意見 助言 等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 転倒事故のさらなる減少に向けた継続的な対策が必要 <input type="checkbox"/> ヒヤリハットの活用による事故予防の強化 <input type="checkbox"/> 職員の心理的負担軽減と働きやすい環境づくり <input type="checkbox"/> 利用者の状態に応じた適切なケア体制の整備